

〈開催報告〉

正宗文庫セミナー2021／賀茂真淵セミナー2021／山田孝雄文庫セミナー2021

神作研一

国文学研究資料館（以下「国文研」と略記）では、去る二〇一九年度より、「機構長裁量経費」を財源として調査収集先の集中デジタル撮影を開始している【地域文化拠点所蔵資料の集中的整備に基づく研究基盤の確立】。担当者は学術資料事業部長で、二〇一九年度は神作研一、二〇二〇年度は入口敦志、二〇二一年度は海野圭介。以下「本プロジェクト」という。

これは、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（二〇一四～二三年度、以下「歴史的典籍NW事業」と略記）では対象としていない、学術資料事業部が管轄する新旧の調査収集先の中から特に五か所——富山市立図書館山田孝雄文庫・浜松市賀茂真淵記念館・京都市歴史資料館・正宗文庫・日田廣瀬家——を取り上げて集中的にデジタル画像を集積し、日本文学研究の基盤形成に繋げようとするものである。歴史的典籍NW事業との関係性に配慮して、近年、調査収集先が（以前に比べると）かなり減少していることは周知の事実であり、このことが特に、文献調査における書誌学的知見の共有と継承に小さなクラックを生じさせていることも、国文研

として認識している。自分の専門や好みとは関係なく、「共同で」文献調査に出精することの〈意味〉はまことに甚大なものがあるのだと、この種の経験を有している者であればおそらく誰もが実感しているに違いない。とりわけ近年は、日本文学を専攻する大学院生の減少という事実があり、このことが若手研究者の総数にも影響し、事態をいっそう深刻化させている。

国文研は本誌が刊行される二〇二二年に、創立五〇周年を迎える。

〈事業から研究へ〉——これは以前したためた小稿「調査収集のこれから」（本誌三八号、二〇一八年三月）にも明記した、調査収集における新たな方針であり、わたくしども国文研では、長年にわたって継続させてきた調査収集事業を、より研究に密着連動したのものとして展開させたいと考えている。二〇二二年から始まる「法人第四期」では、調査収集と連動させた新たな共同研究をまずは五本、「特定研究（地域資料）」の名のもとに展開してゆく。共同研究ながら、メンバーは公募せず、各地域の地域資料専門部会委員を中心として適宜若手研究者（三〇％程度）

を抱き込みながら、チームとして共同研究を進める。本誌にも、その共同研究の成果としての寄稿が増えることを強く期待している。

（地域の資料を地域の皆さまに）——機構長裁量経費を財源とする本プロジェクトでは、集中デジタル撮影だけでなく、長年にわたる調査先との信頼関係のもと、各エリアの地域資料専門部会委員の協力を得て、地域密着型の「日本古典籍セミナー」を開催している。昨年度（二〇二〇年度）はまず富山市立図書館で「山田孝雄文庫セミナー2020」を、そして今年度は岡山・浜松・富山でそれぞれ標記のセミナーを実施した（コロナ禍ゆえにやむを得ずオンラインで開催）。

その概要は以下の通り。

◆ 正宗文庫セミナー2021

二〇二一年九月二〇日（月・祝） 一三時三〇分～一六時三〇分

* オンラインZOOM

挨拶 渡部泰明 国文研館長

正宗千春理事長

基調講演 小川剛生（慶應義塾大学）「正宗文庫の歴史」

講演 丸井貴史（就実大学）「備前軍記の世界」

川崎剛志（就実大学）「西大寺縁起絵巻断簡からみる信仰

の一齣」

◆ 賀茂真淵セミナー2021

二〇二一年九月二三日（木・祝） 一四時～一七時

* オンラインZOOM

挨拶 渡部泰明 国文研館長

齋藤慎五 賀茂真淵記念館長

講演 神作研一（国文研）「筆跡の〈ちから〉——真淵の珍短——」

藤島 綾（都留文科大学・非）「賀茂真淵と伊勢物語絵」

中川 豊（中京大学）「真淵の書簡、真淵をかたる書簡」

◆ 山田孝雄文庫セミナー2021

二〇二一年一〇月二四日（日） 一三時三〇分～一五時三〇分

* オンラインZOOM

挨拶 渡部泰明 国文研館長

高嶋善秀 富山市立図書館長

講演 入口敦志（国文研）「古典籍のかたち」

一戸 渉（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫）

「江戸の版本を読む」

開催にあたって格別のお力添えを賜った、登壇者の小川剛生・丸井貴史・川崎剛志（以上、正宗文庫セミナー）、藤島綾・中川豊（以上、賀茂真淵セミナー）、一戸渉（山田孝雄文庫セミナー）の諸氏、ならびに正宗文庫の正宗千春理事長、賀茂真淵記念館の齋藤慎五館長、富山市立

図書館の高嶋善秀館長・吉岡真和司書ほか御関係のすべての皆さまに、心より御礼を申し上げます。

また、以下の寄稿二本

○小川剛生「正宗文庫の歴史」

○中川 豊「兵頭守敬宛谷川士清書簡について」

は、それぞれのセミナーにおける講演に基づいている。小川・中川両氏には、改めて深甚の謝意を表したい。

なお、二〇二二年度からは国文研の共同研究【特定研究（地域資料）】のもとに、「日本古典籍セミナー」も各地で同時多発的に開催する予定である。ささやかな試みが地域の発展と学問の深化に寄与することを強く願っている。

